

平成23年度岡山県農林水産総合センター生物科学研究所機関評価評価票（概要）

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 1人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. ”県下の産業振興に資する”方向性を具体的に今後示されることが望まれる。</p> <p>2. バイオテクノロジーを活用して、産業振興に役立てようとする基本方針は時代に合うものである。しかし、その中でどこに重点分野を置いているのかということの説明が不十分と感じられる。残念である。</p> <p>3. 運営の方向性をもう少し具体的に示された方がいだろう。</p> <p>4. 妥当／優れている。</p> <p>5. 特に問題ない。</p> <p>6. バイオテクノロジーの進歩はめざましいものがあり、ゲノムワイドな解析に基づいた研究が、あらゆる分野において必須となっている。そのような意味で、遺伝子工学、細胞工学、微生物工学という3分野を中心とすることは重要な意味があり、さらにそれらを基礎とした応用研究への方向性は優れた方針である。</p>					
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. 外部資金の獲得については目をみはるものがあり、継続していただきたい。</p> <p>2. 全予算の中で約30%の外部資金を獲得していることは評価できる。もちろん、県費の支援が大きいにこしたことはないが、外部資金を獲得し続ける体制を維持できることは重要。</p> <p>3. 外部資金の獲得状況は、他の国内研究機関と比べて、大変に優れている。</p> <p>4. 県費が厳しい折、外部資金の獲得は大きく、努力されている。</p> <p>5. グループ間の配分が不明。県からの予算が少なすぎる。</p> <p>6. 3つの重点分野に適切に配置されている。外部資金を獲得できることは研究のレベルの高さを示している。 特に文科省の科学研究費は金額が多くはないが、より専門性の高い人たちによる審査がなされているので、評価すべきであろう。</p>					
3 施設・設備等	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. 共同利用の実績を示すことが望まれる。</p> <p>2. それなりに設備整備されていることはわかるが、経年劣化、特にDNAシーケンサーは能力の向上が著しく、今後の更新が不可欠であろう。</p> <p>3. 外部資金での整備に努力されている点が評価できる。</p> <p>4. 共同利用機器の充実は顕著である。</p> <p>5. 新しい実験機器がそろっており充実している。</p> <p>6. 十分な設備を備えている。10年以上たっている機器についての補充も重要であり、特に顕微鏡類は3つの分野とも必須の機器として常に新しくする必要がある。</p>					
4 研究成果	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
<p>助言、指摘事項等</p> <p>1. 科学的知見の論文発表としての非常に優れている。岡山県における産業振興への寄与が明確でないのが気になる。</p> <p>2. 特許登録、実施許諾ともに優れている。</p> <p>3. 総じて着実に成果が上がっていると評価できる。</p> <p>4. 数に関しては問題ないが、論文リストがないので研究内容について評価しにくい。</p> <p>5. 研究者の人数が必ずしも多くはない中で、良い成果をあげている。しかしこの資料では論文内容（雑誌名）がないので、評価が難しい。</p>					

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験等の実施状況	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. R I B Sならではの「技術相談、指導、普及業務」とはどういうものかをもう少し明確にされるのが望まれる。 2. 技術指導に伴いどれぐらいの波及効果があったのか、報告があることが望ましい。 3. 特許出願24件、登録27件、実施許諾102件で優れている。また共同研究の実施も。 4. さまざまな技術をもっと積極的に他機関に普及させていく必要がある。 5. わからない。					
6 人材育成	非常に優れている 1人	優れている 2人	妥当 2人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. これまでの流動研究員・PD研究員の現職を示すことでR I B Sでの育成成果を示すことができると思う。 2. 研究生の受け入れが5名というの少ないと考えられる。 3. 流動研究員には、論文指導や発表機会を与えており優れている。県大の非常勤教官としての活動も評価できる。 4. 特に問題ない。 5. 流動研究員制度はすぐれた制度である。また、学生等の受け入れも積極的に受け入れる姿勢もよい。さらに多くの若手を受け入れることは活性化にもつながり、海外の学生もインターンシップ等受け入れると国際化につながるであろう。					
7 他機関との連携	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. 基礎研究としての連携と応用研究・普及としての連携に分けて資料を作成されると良いように思う。県内の機関との連携の強調も必要。 2. 共同研究の数は多いことは評価できる。 3. 他機関との連携もしっかりと行われている。 4. 大学等研究機関との積極的な共同研究を行なっている。 5. 十分になされた。(国内)「国際貢献にも資する」点がこの結果からはみえてきていない。					
8 県民への情報発信	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 2人	見直しが必要 3人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 1. サイエンスに興味を持たない”農””一般”の県民にどう存在をアピールするのか、という点については工夫が必要。JAなどを通じてのアピールはできないか？ 2. 当該研究所の活動は科学教育の底上げにもつながると期待される。このような教育的活動は、より活発に考えても良いと考える。 3. やや情報発信が弱い。 4. 指導を含め着実に進められている。 5. さらに積極的に進める必要がある。 6. 公開を積極的に行なっていることは評価することができる。HPを県民にも魅力あるわかりやすいものに変えていくとよいと思われる。					

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. 知財の費用対効果の具体的説明が必要（岡山県への貢献度も示せば）県内連携の具体的方策を示すことが重要。
2. 地理的条件も悪いところで努力されている。知財もよく獲得されている。（H22以降）県内機関ともよく協力している。
3. 特に問題ない。
4. WEBを使った情報発信は、一般の人たちまでいきわたるようになってきたので、研究所のと県民との対話のデジタル化をもっとすることなどの対応がまだ不十分なのではないか。（県民へのアピール不足について）
5. 連携は十分になされた。

総合評価	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

1. バイオテクノロジーというサイエンスの分野における基盤・基礎研究の成果は非常に優れていると判断される。その成果をどのように一般県民、農の方にPRするか、にまだ工夫が必要と思われる。
2. 全体的には妥当と考える。なお、グループの独自性は大切であるが、一方でより一体感がある取りまとめがあると、県民に対するPRがより容易になるのではないだろうか？
3. 3年ごとの評価は、見直されることを提案したい。
4. 県費が大幅に減少している中で外部資金を獲得して努力されていることは評価できる。
5. 評価方法そのものの改善が必要（評価委員に提示する資料が不十分）。発表論文のリストはぜひとも必要。
6. 運営方針への議論を深める必要があるだろう。
7. 予算が厳しい中、外部資金も獲得されて頑張っておられるものと評価できる。特に研究成果も上がりつつあり、今後、果実を収穫できる（応用的展開）状況になりつつあると思われる。
8. 外部への宣伝と県レベルでの知財を宜しく願いたい。
9. 努力が十分うかがわれる。この方向性で進めていただくのがよいと思われる。